

平成29年度事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人放課後遊ぼう会

1 事業の成果

宝塚市内の8小学校において遊び場を定期的に636回開催し、延べ約4万5千人が参加した。

多くの保護者や地域住民が子どもの遊び場づくりにかかわり、地域の中で力を発揮するとともに、世代を超えた交流の輪が広がった。

宝塚市より、市内全体の放課後子ども教室をさまざまな形で支援する「放課後の子どもの居場所づくり地域スタッフ支援事業」を受託した。その一環として、子どもの遊びの重要性や遊び場づくりの意義を啓発するセミナーと、応急手当も含めた安全管理についての講習会を開催した。また、依頼のあった放課後子ども教室にプレイリーダーを派遣するなど、地域の遊び場の質向上に貢献した。

2 事業の実施に関する事項 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所・回数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	支出額小計(千円)	収入源※			
							A	B	C	D
遊び場づくり事業	子どもの遊び場開催 (広報紙発行・危険箇所報告書作成を含む)	通期	宝塚市の8小学校にて合計620回開催	主に宝塚市内の子どもたちと保護者、44,405人	8,195		○		○	○
		毎月第4土曜日他	宝塚市立仁川・末成・光明小学校にて冒険ひろばを合計16回開催	主に宝塚市内の子どもたちと保護者、569人	407			○	○	○
		通期	放課後子ども教室未開設校および休止校合計2校において合計6回開催	長尾小の子どもたち269人、中山五月台小の子どもたち23人	94		○			○
		子どもの遊び場支援	通期	宝塚市の11小学校で開催された放課後子ども教室を25回支援	主に宝塚市内の子どもたちと保護者、2057人、及びスタッフ、488人	402		○		
						9,098				
居場所づくり事業	—	—	—	—		0				
人材育成に係る子どもの育成事業	ボランティア養成講座開催	6月5日 6月8日	宝塚市立西公民館 宝塚市立東公民館	地域住民、延べ41人	195		○			○
						195				
子どもの育成に係る啓発事業	広報紙発行 (子どもの遊び場開催を含む)	通期	法人事務所	保護者と地域住民、延べ約4万5千人	0					
	インターネットでの情報発信による啓発	通期	法人事務所	地域住民	35					○
	遊びや遊び場づくりの重要性を広く啓発するための啓発セミナー開催	10月6日	宝塚市立西公民館	地域住民、24人	120		○			○
						155				
子どもの育成に係る調査事業	保護者アンケート	9月 10月	法人事務所	放課後遊ぼう会を開催している7小学校の保護者、約3,000人	77					○
	放課後遊ぼう会型放課後子ども教室開催校危険箇所の継続調査(子どもの遊び場開催を含む)	通期	宝塚市の8小学校 法人事務所	放課後遊ぼう会開催校の全児童3,719人、及び全遊び場参加者	0					
						77				

9,525

※収入源は次のとおりです。

A：宝塚市「放課後の子どもの居場所づくり地域スタッフ支援事業」(受託事業)

B：兵庫県「子どもの冒険ひろば補助事業」(補助事業)

C：宝塚市立仁川小学校PTAからの助成金(平成29年3月受領)と末成小学校PTA、逆瀬台小学校ゆずりは会からの助成金

D：寄付金他

事業詳細

1 遊び場づくり事業

(1) 宝塚市内の8市立小学校において、放課後の遊び場を次のとおり開催しました。

※()内は平成28年度の数値

事業名	開催小学校名	開催回数	参加者数(人)					平均参加者数(人)	児童数(人)	児童数当たりの参加者の割合(%)
			幼児	小学生	中高生	その他	合計			
宝塚市放課後子ども教室	仁川	233 (240)	114 (106)	21,165 (19,466)	43 (40)	220 (92)	21,542 (19,704)	92.5 (82.1)	731 (730)	13 (11)
	未成	157 (156)	286 (618)	5,078 (4,964)	40 (51)	228 (475)	5,632 (6,108)	35.9 (39.2)	318 (321)	11 (12)
	光明	60 (60)	81 (58)	3,541 (3,380)	3 (3)	55 (25)	3,680 (3,466)	61 (58)	202 (204)	30 (28)
	良元	58 (60)	275 (177)	4,312 (4,597)	24 (62)	120 (85)	4,731 (4,921)	82 (82)	328 (344)	25 (24)
	逆瀬台	60 (60)	53 (67)	2,986 (2,992)	0 (2)	31 (39)	3,070 (3,100)	51 (52)	271 (261)	19 (20)
	安倉	15 (15)	18 (14)	1,377 (1,260)	0 (0)	9 (12)	1,404 (1,286)	94 (86)	544 (542)	17 (16)
	安倉北	18 (16)	25 (7)	1,537 (1,460)	0 (0)	23 (0)	1,585 (1,467)	88 (92)	417 (417)	21 (22)
	宝塚	19 (32)	34 (23)	2,701 (4,220)	0 (2)	26 (10)	2,761 (4,255)	145 (133)	908 (919)	16 (14)
	小計	620 (639)	886 (1070)	42,697 (42,339)	110 (160)	712 (738)	44,405 (44,307)	71.6 (69.3)	3,719 (3,738)	
兵庫県ひるぼの	仁川	13 (14)	18 (18)	300 (328)	0 (6)	57 (33)	375 (385)	29 (27)	731 (730)	4.0 (3.7)
	未成	2 (11)	1 (56)	100 (285)	0 (0)	1 (46)	102 (387)	51 (35)	318 (321)	16 (11)
	光明	1 (3)	3 (3)	86 (154)	0 (0)	3 (4)	92 (161)	92 (53)	202 (204)	46 (26)
	小計	16 (29)	22 (79)	486 (806)	0 (6)	61 (85)	569 (976)	36 (34)	1,251 (1516)	
合計	636 (668)	908 (1149)	43,183 (43,145)	110 (166)	773 (823)	44,974 (45,283)	70.7 (67.7)	4,970 (5,254)		



- ・毎回、放課後遊ぼう会所属のプレイリーダーを2、3名ずつ配置し、安全管理等を担当しました。
- ・登録ボランティア（校区外のボランティアであるサポーターを含む）は全校区で228人、ボランティアの延べ参加者数は1,817人でした。

（2）市内の11小学校区の放課後子ども教室からの依頼に応じてプレイリーダーを2名ずつ派遣し、下記のとおり支援しました。また、放課後子ども教室休止校、および未開設校において、カプラ大会を開催しました。（宝塚市「放課後の子どもの居場所づくり地域スタッフ支援事業」）

支援内容	支援校数	延べ支援回数	支援したスタッフの延べ人数	参加者数	
				児童	その他
カプラ大会実施	11	14	237	1065	112
通常開催支援	6	11	251	715	165
休止校での開催	1	1	3	23	0
未開設校でのプレ開催	1	5	29	269	10
合計	19	31	520	2072	287

カプラ大会の様子



通常開催支援の様子



2 子どもの育成に係る人材育成事業

宝塚市「放課後子ども教室」にかかわるボランティアを養成するための「安全管理・応急手当」講習会を2回、開催しました。

日 時：1回目：6月5日（月）10時～12時

2回目：6月8日（木）10時～12時

場 所：1回目：宝塚市立西公民館 セミナー室

2回目：宝塚市立東公民館 301・302号室

参加者数：1回目：30名、2回目：11名

講座内容（1回目、2回目とも）

- ① 安全管理の必要性和方針
- ② ハザードについて（物的ハザード・人的ハザード）
- ③ その他の危険要因（気象、害虫・病原微生物等、アレルギー、不審者対応、火事・地震対応）
- ④ 開催前の準備（当日の点検、救急箱の準備等について）
- ⑤ ケガ・事故・トラブル時の対応（保護者への連絡、医療機関への搬送、二次災害防止、保険申請について）
- ⑥ 応急手当について（擦傷・切傷・刺傷・出血・鼻血・歯折・指切断・突指・捻挫・眼のケガ・骨折等）
- ⑦ 頭部のケガについて
- ⑧ 心肺蘇生法について



3 子どもの育成に係る啓発事業

- (1) 8小学校において、毎月、小学校と幼稚園の保護者向けのお便りを発行しました。
 お便りに、その月の開催予定とともに、遊びの重要性を伝えるための啓発文を載せました。
 以下が各発行月の啓発タイトルです。
- 9月 「遊びの三間、やりたいことがない子どもたち」
 - 10月 「遊びが育む自己肯定感とやる気」
 - 11月 「自己肯定感と体のはなし」
 - 12月 「遊び場における2種類の危険」
 - 2月 「ぶつからずに走れる? ~遊びが育む「運動能力」~」

遊びの三間

子どもたちの「豊かな遊び」には、三つの間が必要だとされています。それは、「空間」「時間」「仲間」です。その三間が、この数十年間で大きく変化しました。

昔

豊かな遊びがたっぷりあり、空き地や森、神社の境内、山、川などで自由に遊びました。近所の異年齢集団での様々な遊びをして、いろんな力を身につけました。

今

今は、子どもたちは習い事などに忙しく、遊べる時間は短くなり、仲間との時間がない子どももいます。同じクラスの仲間との友だちしか遊ばない子が増え、その友だちと遊ぶ機会がなくなれば、たちまち孤立してしまします。道路や空き地や川では遊べなくなり、公園には禁止事項があり、なかなか自由に遊べません。

「やりたいことがない」子どもたち

2年前、小学生1,000人を対象に「放課後や夏休みやりたいことは何か」を調査した結果が報告されました（『放課後NPOアフタースクール』実施）。それによると、サッカーやドッジボール、鬼ごっこといった定番の外遊びが上位を占めました。5位に入ったのが「なし」でした。「やりたいことがない、わからない、どうでもよい」という子が驚くほど多かったのです。遊びの三間が失われ、自分たちで放課後の過ごし方を考えることが減り、あらかじめ決められた場所決められたことだけをして放課後を過ごすようになってきたのでしょう、と実施団体のコメントがありました。人は、**やりたいことができない状況が続くと、自分から何かをしようとはしなくなり、指示を待つようになる**のだそうです。遊びは自主的・自発的なものです。今の子どもたちにも、やりたい遊びを思いっきりできる環境が必要です。一方、このアンケートでは第1位の言葉がありました。それは、「友だちと」「みんなで」でした。「友だちと○○したい」、「みんなで遊びたい」と子どもたちは願っているのです。

引き続き、遊ぼう会を通じてご協力をよろしくお願いいたします。

遊びが育む自己肯定感とやる気

子どもの頃は、遊びたい遊びで思い切り遊ぶことがとても大事です。やりたいことであれば、根気よく集中して取り組めます。諦めず何度も挑戦してコマを回せるようになった時、ピカピカの恐竜車を作り上げた時、砂場でトンネルを掘り上げた時、子どもたちは大きな**達成感、満足感、充実感**を味わいます。その繰り返しの中で、やり遊げた自分に**自信**を持ち、自分をもっと好きになり、「ありのままの自分が好き」という**自己肯定感**が育ちます。自己肯定感を持つ子どもは、困難に突き当たっても、自分の力を信じて**やる気**を持って**チャレンジ**していきます。つまり、「やる気」のもとになるのが自己肯定感です。

でも、「自己肯定感」を持っている子どもの割合を世界各国と比較した結果、日本は最下位でした（右表）。悲しいことに、「自分には無理」とやる前から諦めたり、「自分はダメだ」と**自分に否定的な子どもが多い**のです。

「自己肯定感」は、**やりたいことを思い切りやるという経験の積み重ね**

研究者の意識調査結果

（内閣府 平成26年度 子ども・若者の暮らし
調査結果：7カ国の13~29歳の若者）

調査項目	日本 (%)	韓国、マレーシア、フランス、オーストラリア、ドイツ
自分自身に満足している	45.8	71.5~85.0
うまくいくかわからないことに自信を持って取り組む	52.2	65.0~85.1
つまらない、やる気がおけないことに「諦め」せずに挑戦する	76.9	44.4~64.5
自分より自信がなかった（調査時の1週間前）	77.9	35.8~63.2
将来に明るい希望を持っている	61.6	82.4~91.1

により身につきます。小さい頃に、遊びたい欲求がかなえられないことが続くと、「やりたい」「知りたい」という意欲がだんだんしぼんでいき、指示を待つようになっていくと書かれています。一方、十分に遊んだ子どもは、ある程度大きくなると自分で遊びを卒業し、年齢に応じた課題に「やる気」を発揮していきます。

遊ぼう会は、自分の責任で自由に遊び遊ばせてあげ、お子さんに「遊ぼう会で遊んでおいて」とお声をかけてください。ご参加をお待ちしています！

- (2) ホームページを毎月更新し、開催中の様子を載せました。
- (3) 子どもの遊びの重要性や遊び場づくりの意義を市民に広く知っていただくための啓発セミナーを開催しました。栗木剛先生をお招きし、子どもの自己肯定感（自尊感情）を高めるためにさせるべきこと、子どもたちとの地域全体でのかかわり方、子どもの姿勢等につきご講演いただき、大変好評でした。

日 時：10月6日（金）10時～12時
 場 所：宝塚市立西公民館 3階 セミナー室
 講 師：栗木 剛先生（mottoひょうご事務局長）
 タイトル：子どものために地域の大人ができること
 参加者：24名



4 子どもの育成に係る調査事業

(1) 放課後遊ぼう会開催校において、9月から10月に、保護者を対象としてアンケート調査を実施しました。

実施校：仁川小、末成小、光明小、良元小、逆瀬台小、安倉小、安倉北小

結果：多くの子どもたちが参加しており、9割以上の保護者が遊ぼう会が必要だと考えていることがわかりました。

(2) 遊ぼう会開催校における危険箇所を定期的に調査しています。

遊具の破損や腐食、遊離端のある登はん用ロープ、体は抜けるが頭部は抜けない危険な幅の隙間など、ケガや事故の原因となる危険箇所を各校および青少年課に報告した結果、8小学校において56箇所が改善されました。

5 事業実施体制

(1) 運営委員会開催

日時：原則、8月を除く毎月第1水曜日10～12時、合計11回開催

場所：宝塚市立西公民館、くらんど人権文化センター

参加者：8校区の代表者、チーフプレイリーダー、役員、延べ100人

内容：情報交換、安全管理につき共有、開催内容・広報紙等につき検討

(2) プレイリーダー会開催

日時：月1、2回、10時～12時30分 合計22回開催

場所：法人事務所、くらんど人権文化センター

参加者：プレイリーダー、理事長、延べ223人

内容：各校の情報交換、ハザードの確認、事前点検、応急手当、三角巾の使い方、骨折対応、頭部のケガ対応、事故シミュレーション、トラブル対応、不審者対応、雷対応、熱中症対策、ノロウイルス対策、工作実習、中国ゴマ研修

※プレイリーダーは別に、消防署において救急救命講習受講（2年に1回）

(3) 各校区のボランティアからなる実行委員会主催の定例会出席

開催校：仁川小・良元小・末成小・安倉北小・宝塚小

参加者：プレイリーダー、理事長、延べ45人

回数：36回

内容：当月の開催中の様子につき情報交換、次月の開催日程や内容、今後の方針につき相談等

6 事例発表・講演活動

(1) にしなりプレーパークプロジェクト「公私協働でつくるこどもの居場所 ～先行事例から学ぶ運営のノウハウ～」にて、足立理事長が事例発表をしました。（10月10日）

(2) 宝塚市立仁川幼稚園ふれあい学級にて、「豊かな遊びが子どもを育む」と題し、子どもの現状と遊びの意義について足立理事長が講演しました。（10月31日）

(3) 伊丹まちプラ講座にて、放課後遊ぼう会の立ち上げからこれまでの経緯と、地域団体や行政の皆様と協働を重ねてきた歩みについて足立理事長が事例発表しました。（11月10日）